



夏の暑さに強い水稲早生品種「愛知135号」を開発

—暑い夏でも玄米の外観品質が安定します—

開発の背景・ニーズ

本県の水稲早生品種は、夏の暑さによる玄米品質の低下が問題となっており、作付面積が極めて少なくなっています。その結果、極早生品種と中生品種に作付が集中し、作業競合が問題となっています。そこで、耐暑性に優れた新たな早生品種の開発に取り組みました。

成果の内容

「愛知135号」は、実需者からの評価が高い中生品種「あいちのかおりSBL」に耐暑性を付与するとともに、出穂期を早めた品種です。本品種の特徴は次の3点です。

- 出穂期は早生品種の「あさひの夢」と同等で、「あいちのかおりSBL」より7日程度早い早生熟期に該当します。
- 耐暑性を有し、白未熟粒が生じにくいため、玄米の外観品質が優れます。
- 「あさひの夢」より大粒で、精米時の歩留まりが優れます。

本品種は2020年3月に種苗法に基づく品種登録出願を行い、7月に出願公表されました。



「愛知135号」の草姿



玄米外観品質の比較

「愛知135号」の主な特徴

品種名	出穂期 ⁽¹⁾	玄米 千粒重	玄米外観 ⁽²⁾ 品質	精米時の 完全粒 ⁽³⁾ の割合
	月.日	g		%
愛知135号	8.09	23.3	4.5 (1等相当)	97.6
あさひの夢	8.08	21.6	5.6 (2等相当)	91.6

(1)移植期は5月18日

(2)1(上上)～9(下下)の9段階評価、5.0が1等下限、6.0が2等下限相当

(3)搗精による割れや生理障害などが生じていない米

「愛知135号」は「あさひの夢」と比較して白未熟粒が少なく、玄米の光沢と透明感が優れます。

愛知県農業への貢献

本品種を導入することにより、猛暑の年でも品質が優れるお米を安定的に生産できるため、生産者の所得向上と愛知県産米の評価向上につながります。また、極早生品種と中生品種への作付集中による作業競合の緩和が期待されます。

また、大粒で精米時の歩留まりが優れることから、近年需要が伸びている中食・外食用途にも対応できます。

【本品種は、愛知県経済農業協同組合連合会との共同研究で開発しました。】